

2024年度 活動報告



生成AIを使って作成しています

活動と目標

活動	作文技法の研究
対象	ビジネス文書
取り組み方	物事の見方、筋書き、語り方の3つの視点で書き方（作文技法）を検討する
各視点	物事の見方（本質）に志向性があること 筋書きの合(道)理性に物事の見方が関わること 語り方は読み手の行動変容につながること
特徴	書く行為のさいの思考様式の気付きと理解を促す （文章構成論や段落論でない）
成果目標	ビジネス文書の書き方読本の製作

本分科会

ライティング分科会委員	
委員	石崎 俊
委員	猪野真理枝
委員	烏 日哲
委員 (主査)	佐野 洋
委員	高木 淳
委員	西出 隆二
委員	笠田 和宏
委員 (事務局)	荻野 孝野
事務局	三橋 朋晴
事務局	埴 金治
事務局	三吉 秀夫

会議開催	開催日
第1回	7月18日 (2024)
第2回	8月29日 (〃)
第3回	10月11日 (〃)
第4回	11月19日 (〃)
第5回	1月17日 (2025)

特徴

- 思考様式の気付きと理解
 - 母語への気付き（無意識の意識化）と母語表現を外国語として取り扱う能力の涵養を含む

語り方 (2018年)	物事の見方 (2020年)	筋書き (~2024年)
行動変容につながる信念の変え方（書き方）を使い分ける	2つ（不動と不変）の見方と2つの動き（位置変化と質変化）	主張の根拠とその正当化の経緯（2つの関係性の在り方）
説得型と共感型	形姿と内実（モノ） 行為と状態（動き）	因果限定と因果選択

推論による結論
とその表現方法

知識の在り方と
その体系化

推論に用いる関係性
(因果性)

概念-思考と判断-伝達



書き方技法

物事の見方 ⇒ 筋書き ⇒ 語り方



思考の様式

記憶（知識）⇒ 推論と結論 ⇒ 表現

記憶（知識）-推論と結論-表現

概念（実在）
形姿と内実（モノ）
行為と状態（動き）



推論と判断（熟慮）
因果限定（合理的）
因果選択（道理的）



伝達（期待）
説得型（主語-行為）
共感型（主題-判断）

集団的な識別を通じて共有された客観と
規範的な期待に沿う規範的な自制を通じた思考*

* シモーナ・ギンズバーグ, エヴァ・ヤブロンカ, 鈴木大地訳「動物意識の誕生（下）」, 勁草書房, 2021: 295頁を参照

物事の見方 (2020年)

世界は事物で
できている

形姿, 外形 (構造)

内実, 役割 (機能)

世界は関係で
できている



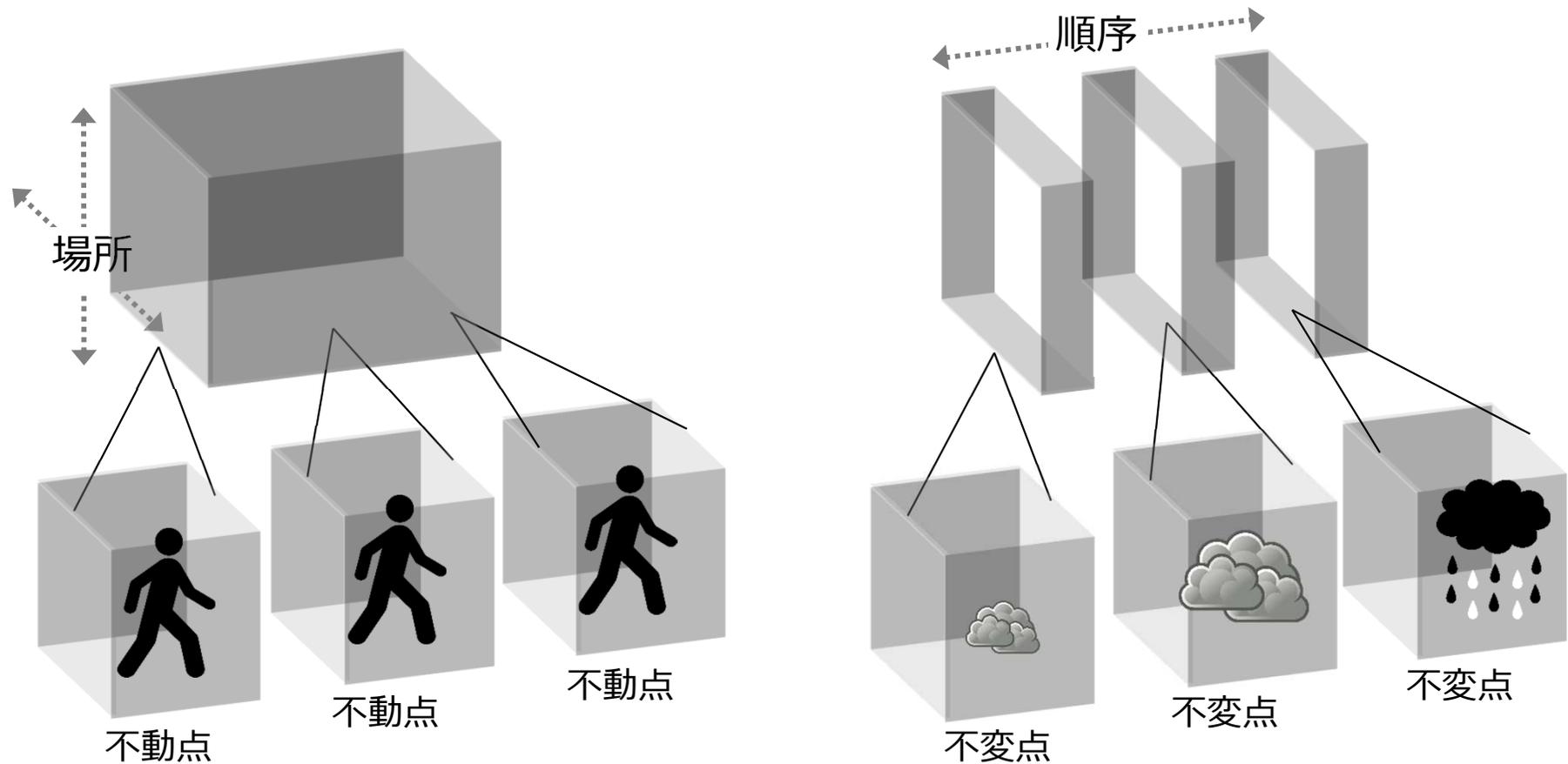
生成AIを使って作成しています

位置変化
(水滴の飛散)

質変化
(水面から水滴)

「モノがある/モノである」と実在

場所を見渡す（空間注意） ← 見当識 → 順序を見渡す（時間注意）



不動点：形姿・外形が実在

不変点：内実・役割が実在

筋書き（推論）の検討（2023年）

- 推論の手続き（議論の技術、事物の対立）
 - 末木剛博, 『日本思想考究』*を参照して検討
 - 三浦梅園/『玄語』の条理と, フリードリッヒ・ヘーゲル / 『弁証法』の論理

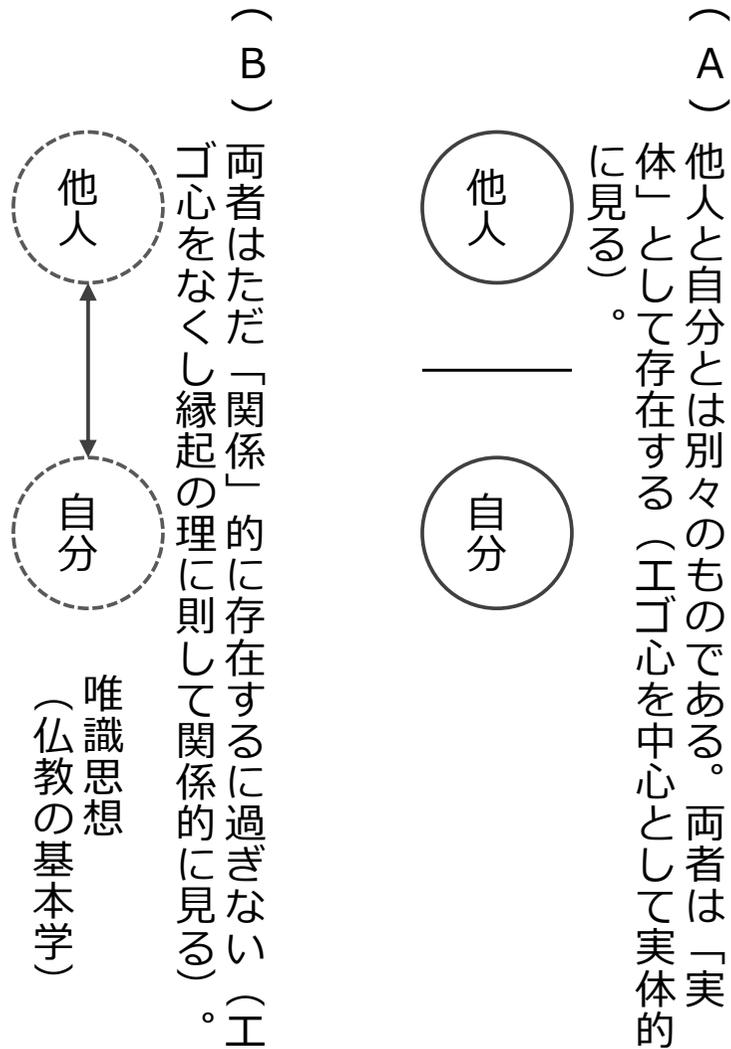
非目的論的で非過程的

道理的	条理	相反する主張（命題）の併存的・相互依存的な関係であり、相互肯定的。一方が相互に相手の必要条件となる。
合理的	論理	相反する主張（命題）の排他的・相互否定的な関係であり、対立的闘争的な関係。一方が立てば他方は立たない。

目的論的で過程的

* 末木剛博「日本思想考究 論理と構造」, 春秋社, 2015 : 第三章を参照

筋書き（関係性）の検討（2024年）



	実在	下位の実在
(A)	モノ（がある） （関係である）	モノの移動によって関係が実体化する
(B)	関係（がある） （モノである）	関係の選択によってモノが実体化する

	関係（因果）の 起因	因果関係の性質
(A)	力、意志	力動の際立ち、運きの着点（状態）の選択
(B)	縁、感受	状態の際立ち、変化の要因の選択

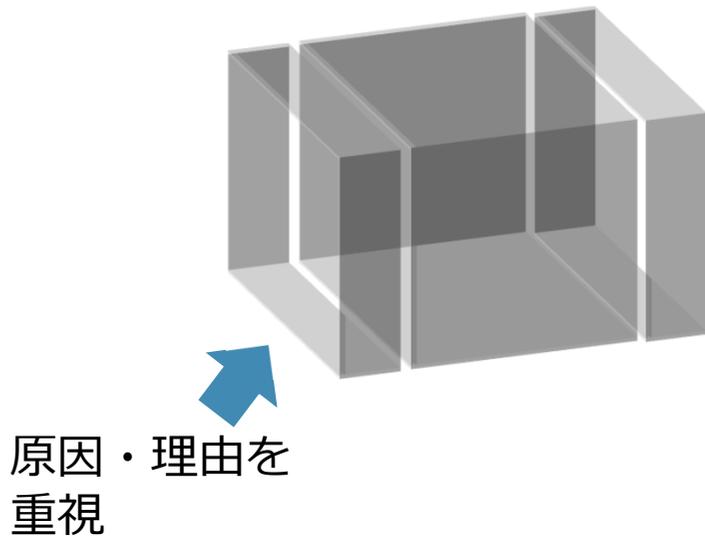
横山紘一「唯識の思想」，講談社文庫，2016：47頁から引用

関係の捉え方

	関係（因果）の 起因	因果関係の性質
(A)	力、意志	力動の際立ち、運きの 着点（状態）の選択

	関係（因果）の 起因	因果関係の性質
(B)	縁、感受	状態の際立ち、変化の 要因の選択

単一の認識的な時空間
（一様性、時間順行の推論）

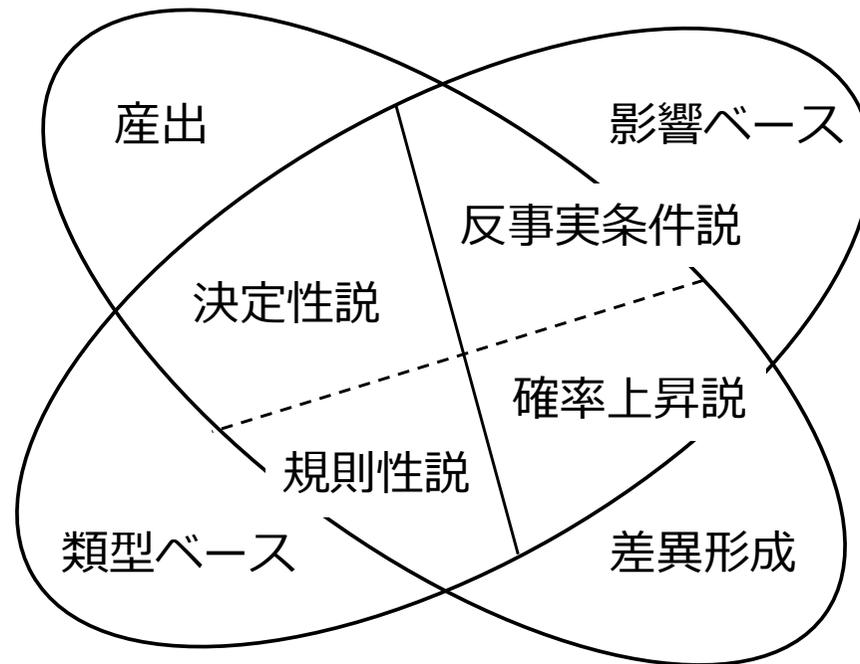


複数の認識的な時空間
（多様性、時間逆行の推論）



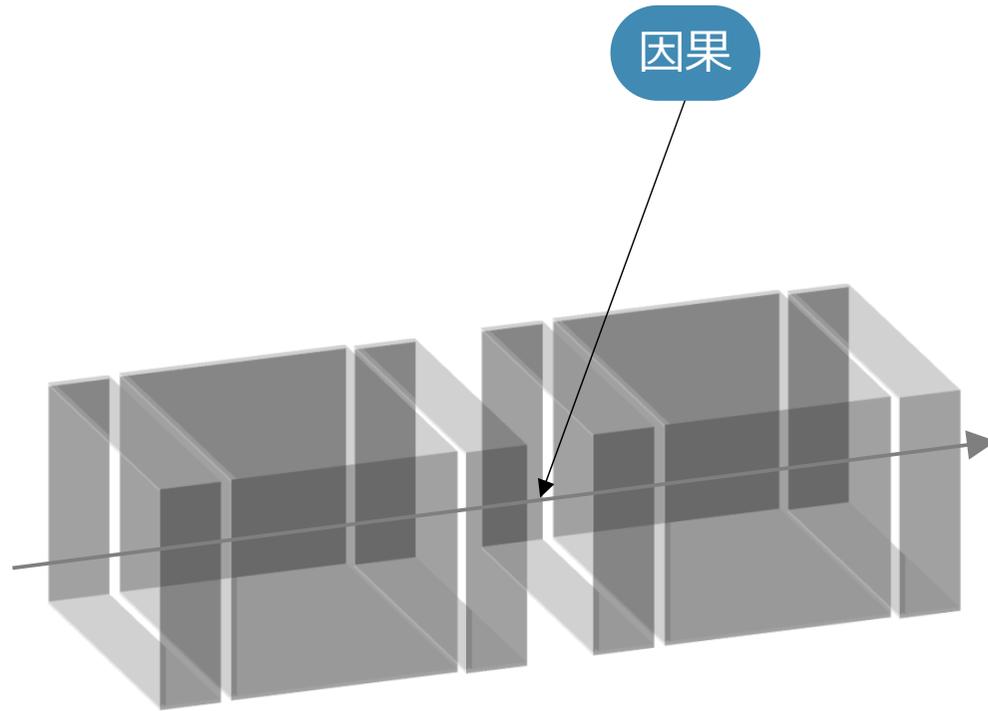
因果性説（関係の捉え方）(A)

	実在	下位の実在	関係（因果）の起因	因果関係の性質
(A)	モノがある （関係である）	モノの移動によって関係が実体化する	力、意志	力動の際立ち、運きの着点（状態）の選択



ダグラス・クタッチ著，相松慎也訳，「因果性」，岩波書店，2019：19頁，図1.1から引用

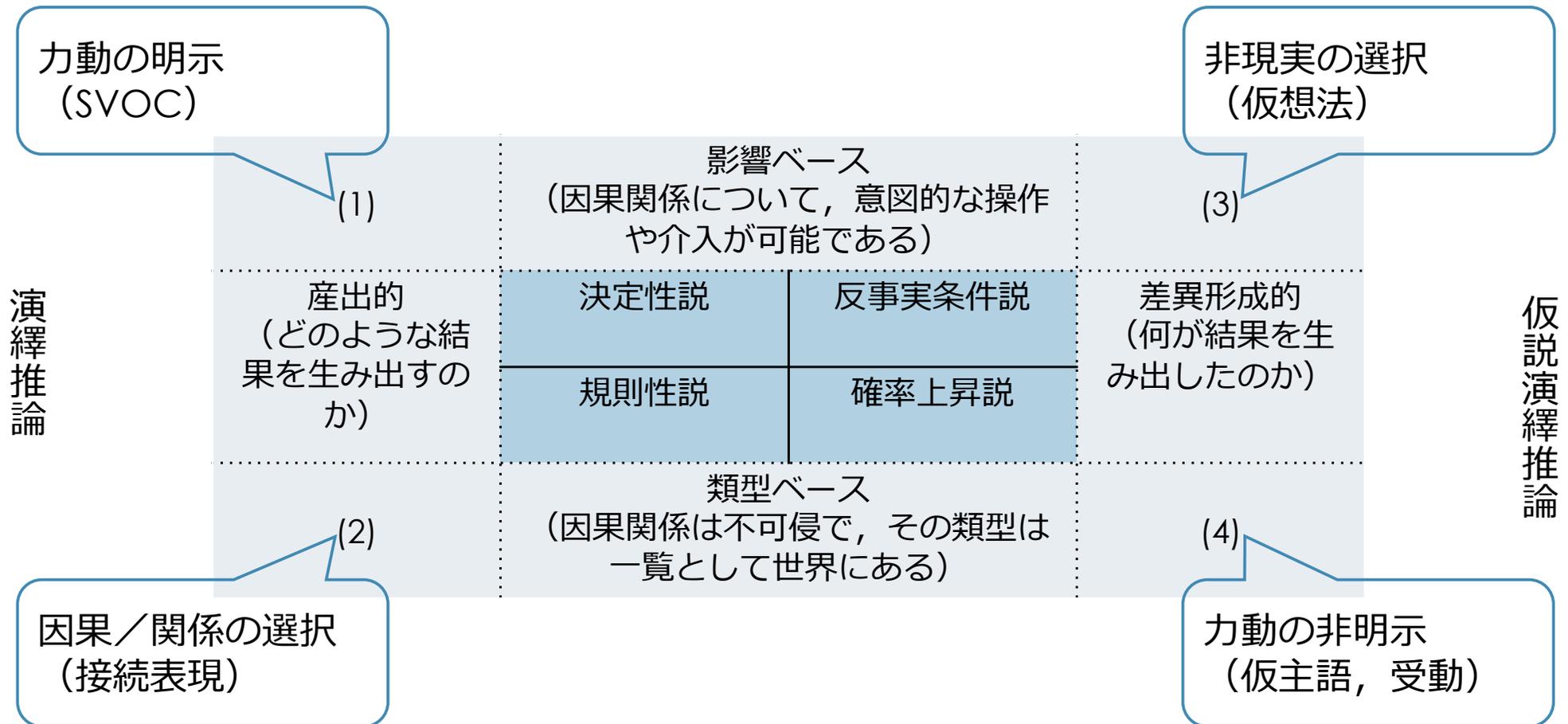
力と因果（関係の捉え方）



■ 時間と場所の近接性

相応因

因果性説と叙述形式（英語）

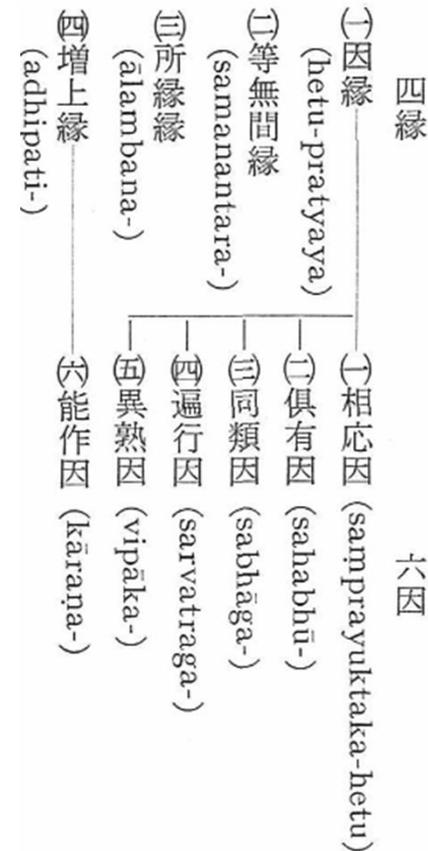


因果論（関係の捉え方）(B)

	実在	下位の実在	関係（因果）の起因	因果関係の性質
(B)	関係（がある） （モノである）	関係の選択によってモノが実体化する	縁、感受	状態の際立ち、変化の要因の選択

アビダルマ（阿毘達磨）仏教における因縁論

四縁・六因説



兵藤一夫、「六因説」について 特にその成立に関して」、大谷學報、2016 第64巻4号から引用

変化の要因とその選択

- 要因（因縁）

- 「六因」* 仏教用語...因縁によって形作られた事象を生じる6種類の原因（因縁を認識する論述（教え（ダルマ）に対する考察）の一つ**）

- （1）能作因、（2）俱有因、（3）同類因、（4）相應因、（5）遍行因、（6）異熟因

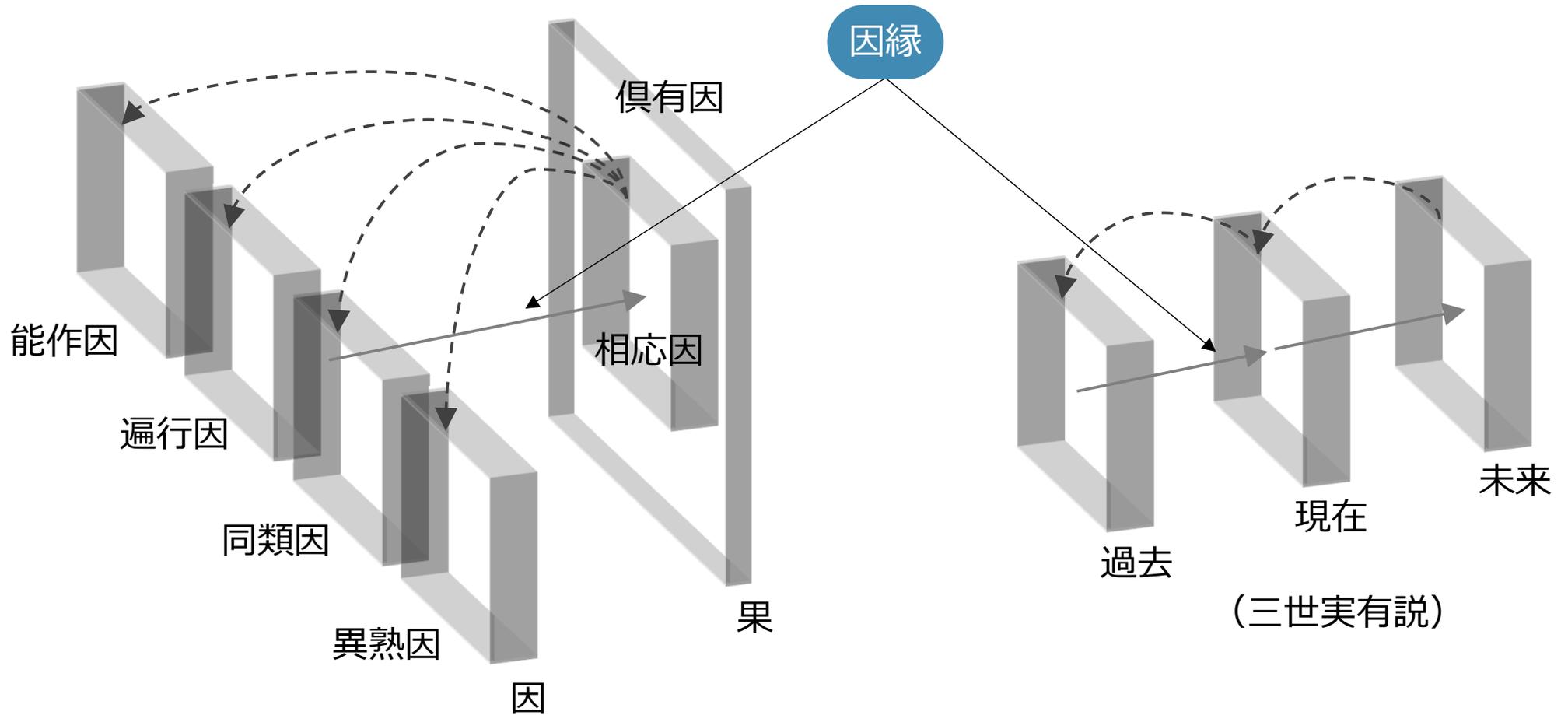
- 選択基準

- 関係の種類（場に依存）と関係の強さ（時間や場所の近接性ではない）

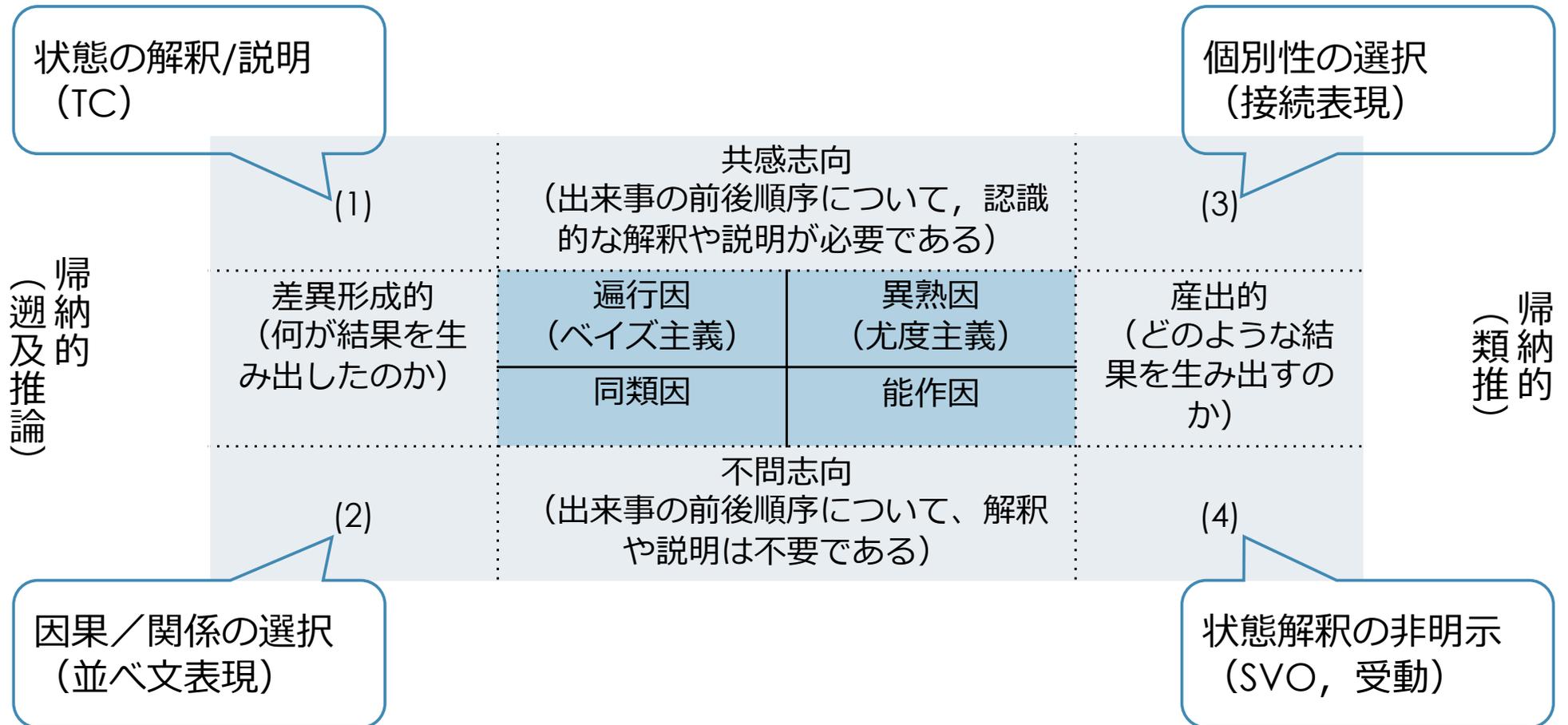
* コトバンク、「ブリタニカ国際大百科事典 小項目事典」（ウェブ版）から引用

** 「六因（ṣaḍvidho hetavaḥ）説では、「物事の原因は六種である」とする。世親（Vasubandhu）作『俱舍論』Abhidharmakośabhāṣya 等に見られ、説一切有部（Sarva-astivādin）説として知られる。」（木村誠司、「アビダルマ文献の六因仏説論について」、駒沢大学佛教學部論集、第48号、平成29年）

縁と因縁（関係の捉え方）



因果論と叙述形式（日本語）



語り方と筋書の型

段作文の型	説得型		共感型	
納得の手段	I (米国) 型	II (欧州) 型	III (東洋) 型	IV (日本) 型
筋書の型	起承-結	起承転結	起承転結	起承転-
意見の形成過程	立証の過程は主張のみを支持する	立証の過程を通じて折り合える点を示す	立証の過程を通じて主張を受容させる	立証の過程を通じて潜在する目的を探る
目的の有無	結論に明示する	結論に明示する	結論に明示する	結論に明示しない
問題解決の型	直接解決型	解決型	解消型	開放型
世界観 (可知的全体)	一つ (決定論的)	二つ (全体/部分, 準決定論的)	一つ (状況依存, 条件付き確率的)	不明 (尤度主義)

概念（知識）と推論・類推

標本化, 量子化	空間分解, 不動点		時間分解, 不変点	
因果観	数量化（数えられる物が在り, 物どうしに関係が認められる）		関係化（認識できる関係が在り, 関係の下で物が認められる）	
論理的な根拠	矛盾律（演繹推論）		排中律（帰納推論）	
確からしさ	偶然に依拠する概念/考え方		認識に関する概念/考え方	
段作文の型	説得型		共感型	
納得の手段	I 型	II 型	III 型	IV 型
筋書の型	起承結	起承転結	起承転結	起承転
推論・類推	演繹的	仮説演繹的	帰納的 （類推）	帰納的 （遡及推論）
確からしさ	頻度	論理的可能性	傾向性	主観的信念強度
信念の拠り所	唯物と意志性	唯物	唯識	唯識と感受性

語り方と叙述（表現）の特徴

段作文の型	説得型		共感型	
立場の顕在化	主語		主題	
立場の構成	形姿 + 意志（行使力） + 視知覚		内実 + 感受（受容力） + 情感情	
立証の意味	原因・理由から結果に至る因果連鎖を辿る運動としての思考行為		原因・理由から結果に至る因果連鎖を複数提示する判断としての思考行為	
立証の叙述	目的を持った意志であり，結果に繋がる経路を，位置変化（運動）表現を通じて明らかにする		可能世界を想起する感受であり，結果に繋がる可能性を，質変化（状態）表現を通じて明らかにする	
立証の主表現	量化表現 – 主語と他動詞，接続詞		関係表現 – 主題と自動詞，条件節	
納得の手段	I 型	II 型	III 型	IV 型
筋書の型	起承-結	起承転結	起承転結	起承転-

成果

- 書き方読本（書き方技法－試作版）
2024年度・成果報告書（予定）

- I型～IV型を使い分けて（賛同してもらうのは無理であっても、少なくとも）納得してもらえそうな主張をする

- 起承-結（I型）

- 利点：素早い決断
- 欠点：合理性よりI can/You canという意志を優先する場合がある

- 起承転-（IV型）

- 利点：強固な判断
- 欠点：条理性より心配/酷いという感情を優先する場合がある

ありがとうございました。
